

令和5年度教員自己評価(中間)アンケート結果について

2023年8月22日

規範意識向上の取組

本校の今年度の重点の1つは、規範意識の向上です。1学期は、教員や児童会が一緒になって「あいさつ」の取組を行いました。同時に、「廊下を正しく歩く」「体育館に集まったときは静かにする」ことを意識的に取り組みました。子どもたちも努力していました。

ほとんどの教員が、これらの取組に手ごたえを感じているようです。教員の自己評価アンケート①②④(学校の決まりなど学校生活についての指導)に対して、肯定的な回答をしています。今年度の重点として、ルールへの指導の重要性を十分意識し教職員が一丸となって取り組んでいることの表れですし、児童も教員も互いに手ごたえを感じているということは、とても素晴らしいことだと思います。引き続き2学期以降も力を入れて取り組んでいきます。(児童アンケート①決まりを守れた、②真面目にそうじができた③あいさつをすすんでできたと回答した児童がいずれも9割前後肯定的な回答)

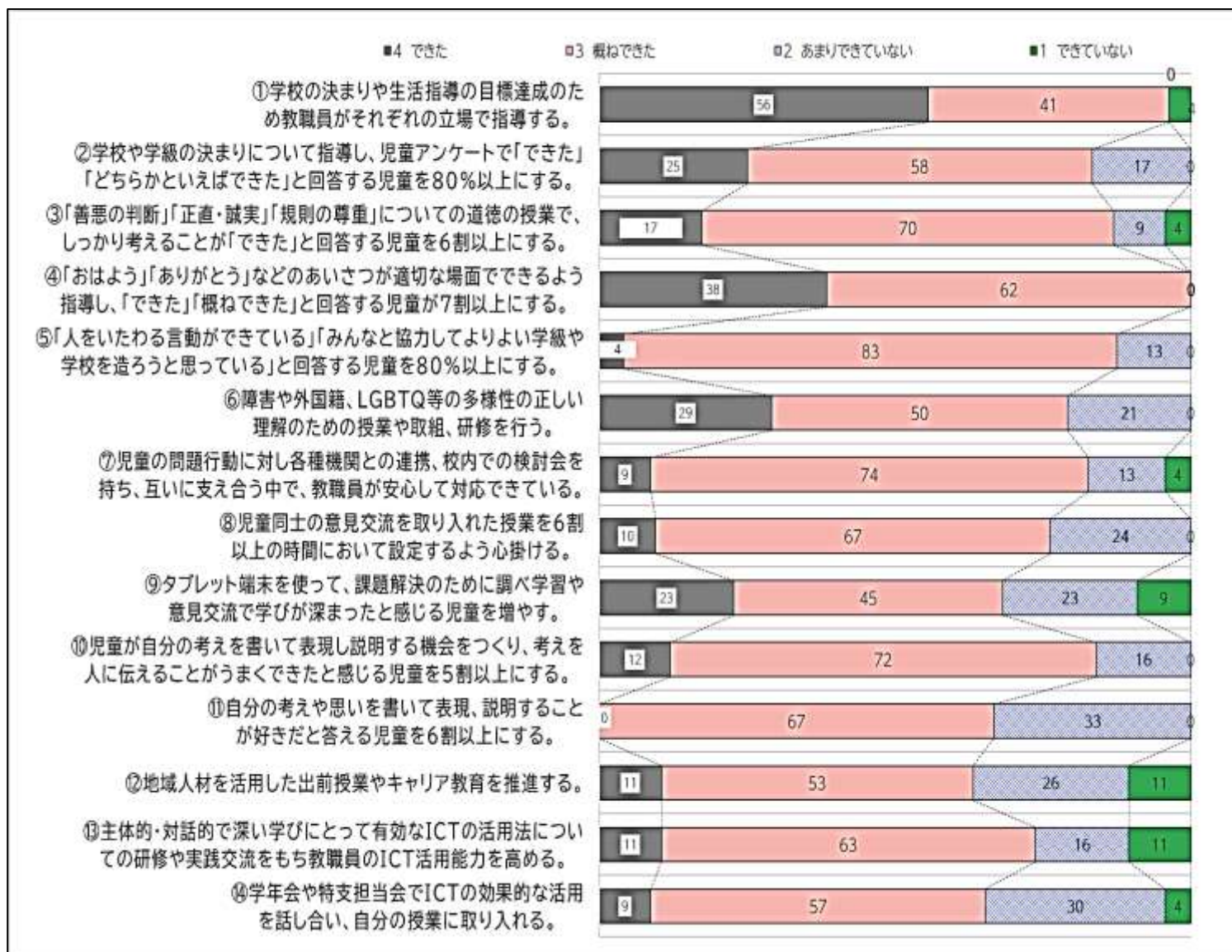
教員アンケート⑤の優しい言動や協力と協働によるより良い学校(学級)づくりに関しては、87%の教員が肯定的に回答(「できた」「概ねできた」)しています。しかし、最高評価の「できた」はわずか4%しかいません。児童アンケートで、⑤「協力してよい学級学校を作ろうとした」について90%以上が肯定的回答をしている一方で、⑩「学校の生活は楽しい」で、12%と少なくない割合の児童が楽しいと思わない、あまり思わないと回答していることを重く受け止めている表れの様です。全ての児童が理想と希望を持って学校・学級づくりに参加し、「楽しい」と感じる児童を一人でも増やす努力をしていきます。

生徒指導等の学校の課題についての取組

「これからも教職員同士が助け合える温かい職場環境があれば、児童も教職員の姿を見て学ぶと思います。」とアンケートの記述欄に回答した教員がいました。⑦「生徒指導上の課題に対して、安心して対応できている」に対して、8割以上の教員が肯定的な回答をしていますが、「できていない」が0ではありませんでした。先生が笑顔で生き生きと働けない学校では、子どもたちの健やかな成長は望めません。学校や学級で起こる生徒指導上の様々な問題に対して、先生一人の問題とせず、学年、学校全体で共に考え協力して助け合える温かい環境をこれからも整えていきます。

主体的・対話的で深い学びのための取組

教員主導で教えるだけの授業ではなく、児童同士が互いに学び合い新しい発見をしたり学びを深めたりできる授業。そんな授業を目指し、日々教員は取り組んでいます。アンケートによると、児童同士の意見交流を取り入れた授業に8割近くの教員が取り組んでいるようです。まだあまりできていないと感じている教員も4分の1弱いますが、全くできていないと感じている教員はいませんでした。児童アンケートでは、92%の児童が「授業を通して新しい発見があった」と回答していますが、⑨「調べ学習や意見交流で学びが深まった」と児童の様子から実感できている教員は、68%で、少し少なめです。「深める」という質問の仕方が難しいので児童アンケートには「新しい発見があったか」を問いましたが、「深い学び」を実現することは簡単なことではありません。教員として、「今日はいまうまいったな」と手ごたえを感じる日もあれば、「もっと深められたのではないかと反省する日もあります。むしろ反省する日のほうが多いかもしれません。こうした反省を繰り返し、教員も日々努力を積み重ねていきます。2学期以降、1学期の取組を継続発展させていきたいと思ひます。



教員自己評価(中間)アンケート 記述部分

★規範意識の向上や

主体的・対話的で深い学びの推進のために心掛けていること

- ◇ その学年にあった障害や特性の理解を目指して子どもたちに話をしていく必要があると感じている。
- ◇ 主体的・対話的で深い学びの始まりは、子ども達の興味・関心だと思っているので、子どもたちが「なぜ」と疑問に感じるような授業の導入が大切だと思っています。(今までで手ごたえがあったのは数回ですが…。)
- ◇ 日本語の上達はもちろん、計算力をつけるためのプリントを毎回授業時にし、算数を得意科目にしてゆきたい。
- ◇ ルールを守ることの大切さを話す。できている子どもを褒める。
- ◇ 主体的・対話的で深い学びの推進のために1年生でできたことは少ないが、それがスムーズにできるようになるために、先生の話も友達の話もしっかり聞くことを指導した。
- ◇ 個別に声をかける。名前と顔を覚えるように心がける。
- ◇ 規範意識の向上：善い行いを全体や個人で褒めることを意識して学級活動を行っている。また、良くない行動が出た時になぜそれが良くないのかまで伝えるようにしている。
主体的・対話的で深い学びのために：ロイロノートで意見の交流をしたり、グループワークを多く取り入れたりするようにしている。子ども達一人一人の中で「できた」と思えるような声かけをするように心掛けている。
- ◇ 規範意識の向上については、規範意識の高い児童の姿が見られたときに、全体の場で具体的に褒めるようにしました。
主体的・対話的で学びの深い学びについては、相手意識を持たせるために話し方・聞き方のきまりを設けて毎時間確認するようにしました。
- ◇ 規範意識の向上や主体的・対話的で深い学びの推進のために、個人と集団が一致して取り組めるように、普段から話し合いを大切にしています。
- ◇ 指導を一度のみで終わらせず、その後の様子も観察し、出来たら褒めてあげる。授業の中で、自分で考える時間、みんなで考える時間を持つ。
- ◇ 高学年としての自覚を持つように日々、声掛けをしている。授業では、子どもたち同士が相談しながら、参加できるように話し合う場をたくさん設けるように心がけている。
- ◇ 走るのを止めた児童をほめる。「気が付いてくれてありがとう。」
- ◇ 実験では、グループで相談しながら役割を分担したり、実験の気付きを出し合ったりして進めることができた。自分で考えるところとグループで考えるところを意識して授業を進める。
- ◇ 常に心掛けていることは、子どもの発言を大切にし、最後まできっちり聞くということです。
- ◇ 全ては「子どもを(深く)知る」ことからだと思い、精一杯、子どもと関わることに努めました。

- ◇ 教室内などの学習環境を整えること。突発的な発言などでなく、「話す」「聞く」「考える」をそれぞれ意識できるようにすること。
- ◇ なぜダメなのかを子どもたちが理解して、行動できるように説明することを心掛けている。
- ◇ 子どもたちによる課題に対する話し合い活動をする機会を積極的に設けてきた。話し合いによって深めあうことができる課題を設定し、活動すること、話し合うことで深めあうことができたかどうかを確認することを心がけてきた。
- ◇ 本校の児童全体においてあいさつの大切さ、気持ちよさを伝えるとともに、自分も積極的にあいさつするよう心がけてきた。制帽や名札の着用等、本校の決まりを守ることの大切さを伝え、守らせていきたい。
- ◇ 常に「先生に怒られるからじゃなく、自分でどうすればいいのか考えて行動しましょう」と話しています。また、できる限り毎時間子ども達が自分で考えたことを交流できる機会を作っています。

★鹿ノ台小学校をよりよくしていくために

- ◇ 今までしてきたことを今後も根気強くしていくことだと思います。
- ◇ 挨拶の取組を続けていく。
- ◇ これからも教職員同士が助け合える温かい職場環境があれば、児童も教職員の姿を見て学ぶと思います。また、教育活動に対する保護者の理解と協力が必要であると考えます。
- ◇ 困っていることがあれば、話を聞いてくれるのでとても感謝しています。
- ◇ のびのび活動班でもっといろいろな活動をさせる。そうじや遊びなど。思いやりや自己有用感を伸ばして学校全体が良い関係になりそうと思うからです。
- ◇ 鹿ノ台小学校の先生方は、すでにみなさんがされていますが、子どもたちに寄り添いながら社会性を身につけるような指導が必要だと思います。寄り添うのと、甘やかすのとは違うので、そこが難しいなとは思いますが。
- ◇ 小さな規則（守らせやすいもの）を設定し、しっかり守らせ、それを積み上げていく。例、先生の机の上は触らない。
- ◇ 高学年がしっかりとルールを守ったり、全校朝会での待つ姿勢を良くしたりと、下級生のお手本となることで学校がよくなっていくと考えます。そのために、全職員がきまりなどの共通理解をし、誰でも対応できるチームにする。
- ◇ どこの学校も過酷な日々を過ごしていると思いますが、鹿小は、若い先生方も一生懸命で、職員室での先生方のやり取りの様子がとても明るいのが特徴だと思います。温かく職員を見守ってくださり、いつも本当にありがとうございます。
- ◇ 職員の個々の距離感を縮めること。会議等における職員の共通理解の徹底。学校全体を考えていく意識を全職員が持つこと。
- ◇ あいさつにしても廊下歩行にしても、否定的な言葉をかけるのではなく肯定的な言葉をかけることで、良い方向に進んでいる気がしています。危険なことなどとっさのとき以外は、できるだけ肯定的な言葉を全教職員ができるといいと思います。